



淡路市【兵庫県】 歴史文化基本構想

■ 策定年月：平成27年3月 ■ 人口：44,646人 ■ 面積：184km²
■ 担当課：淡路市教育委員会（平成30年3月現在）



淡路市の各地域に受け継がれる豊かな歴史や文化を次の世代に伝え、住み良い生活環境づくりや活力あるまちづくりに活かしていくための「道しるべ」となる構想である。淡路市では、この構想に基づいて、市民の皆さまやまちづくりに取り組んでいる団体、専門家の方々、国や兵庫県などと一緒に、歴史や文化を活かして様々な取り組みを展開していく

5 歴史文化を表す つのキーワード

記紀と国生み神話、海運と軍略の要衝、
御食国とものづくり、祈りと信仰、大地の胎動と防災

課題

- ・ 歴史文化の価値の共有がなされていない
- ・ 保存の仕組みや人材育成が十分でない
- ・ 活用が限定的で情報発信が十分でない
- ・ 保存活用主体間の連携がなされていない

保存活用方針

- ・ 歴史文化を活かしたまちづくりのための基盤をつくる
- ・ 歴史文化の価値を守り、伝える
- ・ 歴史文化の魅力を地域活力の向上に活かす

保存活用のための取り組み

淡路島日本遺産

淡路島の弥生時代から続く海の民としての歴史ストーリー「古事記の冒頭を飾る国生みの島・淡路～古代国家を支えた海人の営み～」が日本遺産に認定され、洲本市・南あわじ市・県、市民団体とともにフェスティバルなどの普及啓発事業や観光ボランティア育成事業を実施している。



和歌の路整備事業

淡路市西海岸は万葉集をはじめとして永く詩歌の舞台となってきた地域で、現在、市内には万葉の時代の和歌の外にも多くの歌碑が建てられかつての淡路島の自然や人びとの営みが伝えられてきた。この地域資源を活用し、地域の活性化及び自立を目指す取り組みを展開している。



五斗長垣内遺跡の保存と活用

弥生後期の鉄器生産遺跡において、地域住民と市教委の共同作業による竪穴建物整備や、大学機関とも連携し鍛冶実験を実施し、専門家の指導のもと弥生の森復元プロジェクトを開催。歴史学習や地域産業・地理学習の場として小中学校の児童の受入も行っている。



淡路市国生み研究プロジェクト

弥生時代の淡路島の歴史を北淡路の丘陵部に急増する弥生時代後期の遺跡群の調査を通して究明するもので、平成27年から舟木遺跡重点調査としてシンポジウムを開催。平成28年度からは第1期埋蔵文化財発掘調査を実施している。



関連文化財群

淡路市の歴史文化を構成する
7つのテーマ

「記紀」と国生み神話
国生み神話をはじめとした「古事記」「日本書紀」にまつわる歴史文化遺産が数多く残り、かつての中央政権とのつながりをもつ重要な地域とされていました。

祈りと信仰
巨石信仰やエビス信仰に係る神社や巡礼の霊場などが多くみられ、権尻の出る様々な祭礼・行事が現在に受け継がれています。

海運と軍略の要衝
海運の大動脈であった瀬戸内海を介し、古くからモノや情報が行き交い、浦や港が栄えた一方で、古代から近代に至る軍略の要衝でもありました。

景勝地への来訪
海と陸とが創り出す美しい風景が人々を魅了し、古くから多くの人々が訪れ、数多くの詩歌が詠まれてきており、近年は観光地としての賑わいもみせています。

大地の胎動と防災
大地の胎動は、本市の歴史文化の基盤となる美しく豊かな自然風景を創り出す一方で、阪神淡路大震災などの災害を引き起こしてきました。

ものづくり
古代の鉄器生産遺跡をはじめ、古くからのものづくりが盛んな地であり、近世に始まる線香作りは、現在も本市の地場産業として受け継がれています。

御食国
古くから海と山の幸にめぐまれ、古代には「御食国」でもありました。その後も、漁業・農業を中心とした第一次産業が人々の生活を支えてきました。

淡路市には、海に囲まれた陸（島）という環境のもとに、他地域とのかかわりのなかで築き上げられてきた「島国」固有の歴史文化が受け継がれています。七つのテーマが相互に関係し合うなかで、「海」と「陸」とをつなぎあわせることによって成り立つ『海と陸（おか）をつむぐ営みの歴史文化』であるといえます。

ストーリー

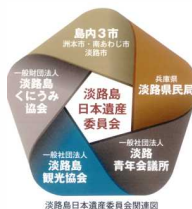
- ①「記紀」と国生み神話
- ②海運と軍略の要衝
- ③景勝地への来訪
- ④御食国
- ⑤ものづくり
- ⑥祈りと信仰
- ⑦大地の胎動と防災

策定後の成果（見込まれる効果）

①文化財から歴史文化へ
歴史文化基本構想に基づき、指定文化財だけでなく、未指定の文化財も関連文化財群として捉え、保存活用を推進していくことで、地域住民が将来世代に受け継いでいきたいと思う歴史文化遺産を対象に事業を進めていくことが出来る。それにより地域住民の保存・活用に対する意識の向上を図ることができる。



②市域を越えた取り組みの展開
歴史文化基本構想では、淡路島全体の歴史文化の活用を市域を越えて展開することで、より広域的な視点から淡路島の歴史文化を捉え、歴史文化遺産の適切な保存や、活用に向けた取り組みの充実が図れるとしている。その取り組みの1つとして淡路島の日本遺産ストーリーを通して歴史文化の活用を行っている。



③地域づくり・まちづくりへ
地域の歴史文化遺産の保存・活用を地域住民と協働して行うことで、固有の歴史文化に磨きをかけ多様な魅力を発見することが出来る。そして、まちづくりや観光等の分野と連携を図り、歴史文化遺産を地域づくり・まちづくりに活かす「仕組み」づくりへ展開させることで、次世代への継承が促される。

